

Title	近畿墓跡考 大阪之部, 鎌田春雄著
Sub Title	
Author	武田, 勝藏(Takeda, Katsuzo)
Publisher	三田史学会
Publication year	1922
Jtitle	史学 Vol.2, No.1 (1922. 11) ,p.138- 138
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	書評
Genre	Journal Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00100104-19221100-0138

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

大和中心の文化に融合して生活を営む時代に至つて土師部の職業に従事し盛んに埴輪を調製したためであらう、又畿内地方の古墳から實用的石製品の多く発見せられるは此の地方が夙に末開の域を超越して貝器をそのまゝ、使用せずに石製にその名残を留めたものを用ひるに至つたと解すべきである、かくの如く古墳分布區域には夫々地方色はあるが、九州北部に銅鉾銅鋌が行はれた金石併用時代の遺跡を除外すれば畢竟大同小異といふべきで、大體から觀察すれば同一文圖にあると稱すべく、而して其の中心的地點は畿内地方であることは多くの學者の肯定するところであると論じ結ばれて居る。最後に(六)古墳と大和朝廷の成立に於て、山陵は總べて畿内地方にあり、畿内は古墳の文化の中心地であるから古墳と陵墓との關係の密接なるは勿論、古墳の發生は大和朝廷の成立と相俟ち、即ち古墳は大和朝廷の搖籃時代に發生したと云ふべく、大和朝廷は古墳の源泉地に成立したと稱すべきであると論述し了つて居る。

以上は本書を一讀し参考となり且つ興味の深かつた處の中二三を記述したのであるが、要するに本書は古墳の構造、石槨、石棺並に副葬品等に就いて簡略に論述せられてあるから考古學に興味を有するものは一度本書を繙くべきである。(武田勝藏)

近畿墓跡考 大阪之部

(鎌田春雄著
大鏡閣發行)

本書は四六版五百三十頁程のものであるが、大阪市内各所に散

在する天正十四年以來慶應末平に至る迄の後世名ある人の墓を調査考證したもので、其收むる處は國學者、儒者、歌人、詩人、俳諧、醫師、志士、義僕又は遊女等に至る迄二百十餘名である。

是等各人の墓に付きては各々所在、形式、刻文、略傳の四項に分つて説明し、先づ「所在」に於ては單に寺院名のみを掲げるのみでは無く其寺院境内の何處の邊にあり、且何の方に面して居るかも記してある。次に「形式」に於て墓石の五輪塔、寶篋塔、位牌形等の何れに屬するやを記し、又其墓石並に臺石の種類寸方等に至る迄詳細に記し猶其碑文の撰者筆者名をも附記してある。次に「刻文」に於ては正面、側面、背面の文字を残す處なく記し、且つ讀み易き様に句讀を施してあるが、若し各々「行」をも明記してあつたならば一層有益であると思はる。次に「略傳」に於ては其の人の事歴の大要を記してある。

猶卷頭には展墓者の便を計つて寺院の位置を知るために其略圖九を掲げ、又卷尾に「墓所檢索」を附し且「掃苔雜錄」と題し墓碑檢索の趣味談を加へ、最後に「忌辰年表」と題し本書に収録した各人名を其没年月日順に列記し猶其歳を附記して便利なるものである。要するに香華を捧ぐる者あと絶えぬは謂ふ迄も無く、其あと絶え苦むした無縁の墓石をも檢索し其の銘を摹寫し、諸書を涉獵して其人の略歴を記述した著者の勞は贅すべきであり、地下に眠れる故人も亦喜ぶ事と思ふ。

本書は吾等の如く墓碑檢索に興味を有する者には缺く可らざる好著であり、著者に今後引續き他の地方の部も蒐集上梓せられる事の一日も早きを望むのである。(武田勝藏)